

6.7 大学図書館における情報リテラシー教育の実際

京都大学附属図書館情報サービス課長
 淵 上 光 明

京都大学では、平成10年度から情報リテラシー教育の一環として、全学共通科目「情報探索入門」(前期)を開講している。この情報探索入門は、論文・レポートを書くための文献情報収集、卒業論文作成のための文献調査等に必要な情報活用技術を演習によって習得させながら、情報図書館学、情報探索学の概要を学ばせることを目的として、担当教官と図書館職員が協力して取り進めている。

1 背景

大学設置基準の大綱化、学内のマルチメディア及びネットワーク環境、インターネットの急速な発展等大学図書館を取り巻く環境が著しく高度化・多様化してきており、文献や情報が今までの図書や雑誌に加えて、ネットワーク上の資源やCD-ROMなどで多様に出現しており、この種の情報の活用能力が大学での研究や学習の前提となってきた。

また、学術情報の流通形態が変化しつつある環境下での大学図書館の在り方については、平成8年7月文部大臣諮問機関である学術審議会の建議「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」に記述されており、この中で、電子的情報資料の有効利用を含めた情報リテラシー(情報利活用能力)教育、特に学生向けの利用者教育は、情報リテラシー教育の一環として、大学図書館の協力(支援)の下、全学的に取り組むことができるよう、教育体制の整備が必要であると指摘されている。

2 開講のための準備

(1) 組織の設置

(情報探索入門演習実行ワーキンググループ等)

(2) 講義内容の検討

(講義科目名、講義の目的、講義日程と内容、成績評価・単位数、開講期、対象学生・学年、講義教材、講義時間等)

(2) 演習内容の検討等

(分類、参考、目録、データベース及びインターネット等)

3 平成12年度の講義概要

(1) 科目名

「情報探索入門」 - 図書館とインターネット情報の活用 -

(Introduction to Information Retrieval)

(2) 目的

論文・レポートを書くための文献・情報収集、卒業論文作成のための文献調査時等に
必要な情報活用技術を演習によって習得させながら、情報図書館学、情報探索学の概
要を学ばせる。

(3) 開講期

前期(2単位) 講義時間は月曜日第5講義(16:30~18:00)

(4) 対象学生と定員

2~4回生の全学部学生を対象として、定員は220名である。

(5) 講義教材

大学生と「情報の活用」: 情報探索入門
(長尾真監修、川崎良孝編集、京都大学図書館情報学研究会発行、日本図書館協会発売)
access.txt 文献調査・利用ガイド
(京都大学附属図書館編集・発行)
その他プリント等

(5) 講義日程と内容

回	月 日	内 容 (標 題)	備 考
1	4月17日	大学図書館への招待	(講義)
2	4月24日	分類の一般概念と分類理論	(講義)
3	5月 1日	同 上	1 (演習)
4	5月 8日	学問・研究・文献・情報	(講義)
5	5月15日	参考資料の種々とその利用	(講義)
6	5月22日	同 上	2 (演習)
7	5月29日	同 上	(演習)
8	6月 5日	目録情報とその利用	(講義)
9	6月12日	同 上	3 (演習)
10	6月26日	データベース及びインターネット情報とその活用法	(講義)
11	7月 3日	データベースの活用法	4 (演習)
12	7月10日	インターネットの活用法	5 (演習)
13	7月17日	図書館情報及び図書館の種類とその機能	(講義)

(演習概要)

- 1 分類の一般概念と分類理論では、クラスター分析を応用した3次元情報検索システムで岩波新書を検索し、その結果と通常の十進分類との違いを考察する等。
- 2 参考資料の種々とその利用では、各自興味のあるテーマを設定し、附属図書館にある参考図書、カード目録及びCD-ROM等を使用しての演習。
- 3 目録情報とその利用では、京都大学OPAC、NACSIS Webcat、英国図書館や議会図書館のOPACを使用した検索等。
- 4 データベースの活用法では、NACSIS-IRを使用して、京都大学教官の専門業績等を調査する。
- 5 インターネットの活用法では、提示するいくつかのテーマから興味のあるものを選び、インターネットから情報を収集しまとめる。Yahoo等の検索サイト、Enjoy JOISを使用。

4 図書館の役割

附属図書館が全学共通科目提供部局となっており、事務窓口である情報サービス課参考調査掛で、演習補助者の人選、講義室・演習室の手配、その他連絡調整等すべてを行っている。

また、演習補助者については、京都大学の全学共通科目履修案内にも、「演習は図書館司書が協力する」と明記されており、図書館職員15名がこれに当たっている。

今後とも、情報リテラシー教育については、学内の関連部局との連携を強化し、図書館が積極的な役割を果たしていくべきと考えている。

5 アンケート調査

受講生の学年、所属学部、講義及び演習の内容等について、アンケート調査を実施している。

6 その他課題等